

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2015年9月）

目 次

内 政

- ◆国境検問に関する暫定的措置の導入 2

外 政

- ◆V4臨時首相会合 2
◆NATO事務総長のスロバキア訪問 2
◆ウクライナ首相のスロバキア訪問 2
◆V4+独・ルクセンブルク臨時外相会合 3
◆難民問題に関する欧州司法裁判所への提訴 3

社 会

- ◆オーストリアにおけるスロバキア人就業者数 3

経 済

- ◆中国経済減速のスロバキアへの影響 4
◆スロバキア経由のガス輸送の見通し 4
◆スロバキア中央銀行中期予測（第3四半期） 4
◆スロバキア中央銀行月報（9月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆国境検問に関する暫定的措置の導入（９月１４日）

独による暫定的国境管理措置の導入を受け、スロバキアは、スロバキア・ハンガリー及びスロバキア・オーストリア国境通過に関する暫定的措置を導入する。スロバキア警察は大量移民の問題を受けて、国境警備の人員を２２０名増員する。オーストリア、ハンガリー及びチェコの警察当局との調整を行い、移民の密輸業者に対する厳格な措置をとる。不法移民の輸送に使用される可能性のある車両の検問を実施する。これらは暫定的措置であるが、現時点では期限は未定となっている。

外 政

◆V４臨時首相会合（９月４日）

フィツォ首相は、プラハで開催された難民問題に関する臨時のV４首相会合に出席した。フィツォ首相は会合終了後、EU域内への際限の無い移民流入が、危険な目的を持った人々、様々なテロリスト組織と関係のある人々の流入のリスクをもたらし、EU域内の治安の脅威も高めることになる」と述べた。フィツォ首相は、優先事項がシェンゲン国境の管理であり、V４もその点で合意したことを強調した。フィツォ首相は、「我々は今回の共同声明を、移動の自由をEUの基本的な柱の１つとするシェンゲンの価値を維持することへのV４の関心を証明する文書と見なしている」と述べた。

◆NATO事務総長のスロバキア訪問（９月１０日）

ストルテンベルクNATO事務総長はスロバキアを訪問し、キスカ大統領、フィツォ首相、外相等と会談を行った。キスカ大統領とストルテンベルク事務総長はEUにおける安全保障上の変化から、NATOが同盟国の安全保障を維持するための防衛措置を継続する必要があるという点で合意した。ライチャーク外相とストルテンベルク事務総長はNATO及び加盟国における政治的決定プロセスの迅速化の必要性について協議した。双方は、ウクライナ情勢、NATO・ロシア関係、西バルカンにおけるNATOの役割についても取り上げた。ライチャーク外相はNATO開放政策がスロバキアの政治的優先課題の１つであることに言及した。

◆ウクライナ首相のスロバキア訪問（９月１０日）

ヤツェニューク・ウクライナ首相は当地を訪問し、キスカ大統領及びフィツォ首相と会談を行った。キスカ大統領はウクライナの主権及び領土一体性への支援を表明した。キスカ大統領は、ウクライナにおける改革の進捗を評価する

と共に、更なる改革への努力の必要性を強調した。フィツォ首相及びヤツェニェーク首相は、スロバキアからウクライナへのガス逆送を成功したプロジェクトとして認識している。また、フィツォ首相は、ウクライナ政府が情勢安定化のために行った努力を評価し、「スロバキアは、ウクライナが生活水準の向上等の国内課題に集中できるようにしたいと考えており、最大限の援助を行う用意がある」と述べた。

◆V4+独・ルクセンブルク臨時外相会合（9月11日）

ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相は、プラハで開催された移民危機に関するV4+独・ルクセンブルク外相会合に出席した。ライチャーク外相は、「EU国境警備の強化、難民の帰還政策及び難民の出身国との協力の緊密化等についてはすぐに合意した。難民の自動的な割り当てシステムに関するV4諸国とその他の国々との間の見解の相違は依然続いている」と述べた。V4外相は独及びルクセンブルクの外相との会合終了後、移民危機に対する共同声明を採択した。声明は、移民を巡る困難な問題に関する決定的な瞬間において、欧州が分裂することはできないと述べている。V4はEUレベルで合意された解決策への十分な支援を表明すると共に、EU内での調整の重要性を強調した。

◆難民問題に関する欧州司法裁判所への提訴（9月24日付スメ紙）

フィツォ首相は難民の強制的割り当てに関し、EUを提訴する考えを表明した。フィツォ首相は22日のEU内務理事会が多数決によって難民の割り当てを決定し、首脳会議におけるコンセンサスによる決定を行わなかったことを批判した。EU法の専門家であるカラス氏は、フィツォ首相が承認された割り当てを無視することをより大きな問題と考え、割り当てを履行しない場合、条約違反になると指摘する。また、割り当ての無視はスロバキアのイメージを損なわせる。すでに与党「方向（Smer）」は、欧州社会党からの批判にさらされており、欧州議会社会民主主義会派代表のピッテツラ氏は、欧州社会党におけるSmerの会員資格停止を提案している。

社会

◆オーストリアにおけるスロバキア人就業者数（9月10日付経済新聞）

スロバキア統計局によると、オーストリアがチェコに代わってスロバキア人にとって最も人気のある外国の就業先となった。現在、3万9300人のスロバキア人がオーストリアで就業しており、チェコよりも2000人多い。2010年時点ではチェコでのスロバキア人就業数は、オーストリアの1.5倍であった。チェココロナ安がチェコの賃金の魅力を低下させた。オーストリア

は2011年に雇用市場を完全に開放した。スロバキア人看護師、理学療法士、溶接工及び技師等が数多くオーストリアで働いている。

経 済

◆中国経済減速のスロバキアへの影響（9月4日付スメ紙）

世界第2位の経済大国の減速から、スロバキアは近隣諸国以上の打撃を受ける可能性がある。スロバキア企業の中国への直接輸出は19億ユーロであるが、ドイツを通じた間接輸出も約14億ユーロに上る。スロバキアがドイツに輸出した製品の82%は中国に輸出されている。中国への輸出に関して、V4諸国の中ではチェコが最大の部分を占めており、約33億ユーロ相当の製品を輸出している。中小企業連盟のハヴリーチェク氏は、「スロバキアは国の規模を考えると、輸出における中国への依存はより大きくなっている。直接及び間接輸出の合計では、チェコとほぼ同じである」と指摘した。（スロバキア統計局による2014年のスロバキアの対中輸出は、総額13億7460万ユーロで、スロバキアの輸出全体の2.1%を占め、12位となっている。）

◆スロバキア経由のガス輸送の見通し（9月8日付当地スメ紙）

露ガスプロム社は、バルト海を通るノルド・ストリーム・ガスパイプライン拡張の更なる段階に着手した。独仏英の大手ガス企業数社は、プロジェクト実現に向けたガスプロムとのパートナーシップ協定に署名した。プロジェクトの実現は、東西を結ぶスロバキアのパイプラインの戦略的重要性を低下させることになる。昨年、スロバキアのEustream社は4700万立方メートルのガスを輸送し、3億3400万ユーロの利益を得た。新たなパイプラインはスロバキアのガス輸送の利益の減少につながる可能性がある。エネルギー専門のアナリストであるバディダ氏は、「ノルド・ストリームやトルコ・ストリームのようなプロジェクトはウクライナ、スロバキアを迂回するため、ガス輸送会社の将来の利益を脅かし、当該企業の市場価値を下げることになる」と指摘した。

◆スロバキア中央銀行中期予測（第3四半期）

1. GDP

スロバキア経済は、予測通り第2四半期においても前期比0.8%の力強い成長を持続した。成長の主要因は国内経済であった。特にEU基金の更なる活用とインフラ建設に支えられた投資活動が大幅に高まった。同時に民間消費は、とりわけサービス部門の後押しにより比較的速い成長を示した。第2四半期の輸出高は、外需の弱さを反映して若干減少した。スロバキア経済成長は中期予測の範囲では3%以上を維持する見込みである。2015年のGDP成長率は

第2四半期予測と変わらず3.2%に達し、2016年は第2四半期予測から0.4%下がり3.4%とわずかな加速となり、2017年は0.2%下がり3.3%と鈍化する見込みである。

2. 労働市場及び賃金

強固な投資需要に支えられた第2四半期のスロバキア経済の力強い伸びは雇用創出を促進し、雇用率は0.7%上昇して失業率のより顕著な低下を後押しした。中期予測の範囲では、雇用率は2016年に1.2%増、2017年に0.8%増の見通しとなっている。失業率は本年11.4%、2016年には10.4%、2017年には9.4%まで低下する見込みである。2015年の名目賃金の伸びは低インフレと生産性の脆弱な伸びとの関連で鈍化し、2.7%増となる見込みである。2016年に名目賃金は3.5%増、2017年には3.9%増となる見込み。

3. 物価

最新の予測は、主に食料品及び燃料価格の下落及び9月からのガス料金の値下げを受けて、第2四半期のインフレ予測から-0.2%修正された。2015年にインフレは-0.3%に達する見込みである。中期予測には、ガス料金の9月からの値下げに加え2016年1月からの値下げ分についても反映されている。また、2016年1月からの特定の食料品に関する付加価値税減税も同様に考慮されている。これらの理由から、2016年のインフレは1.0%前後と比較的低い水準に留まると予測される。2017年はガス料金値下げが見込まれるものの、インフレは約1.9%と加速が予想される。

4. 貿易

第2四半期のスロバキアの外需の伸びは、当初の予測を下回った。中国を含む新興国経済の減速を受けて世界経済の成長の鈍化が予想されることから、中期予測の範囲におけるスロバキアの輸出の伸びは第2四半期予測を下回ると見られる。2015年のスロバキアの外需の伸びは3.1%に達し、2016年は4.3%増、2017年は5.2%増となる見込みである。

◆スロバキア中央銀行月報（9月）

1. GDP

第2四半期のスロバキア経済の伸びは前期比0.8%の水準で、8月半ばの速報値が裏付けられる結果となった。経済の成長構造における主要因は内需、特に投資であった。輸出は、力強い第1四半期の後、第2四半期はわずかに減

少した。7月の鉱工業生産、売り上げ及び輸出も伸びが加速し、第3四半期もスロバキア経済の堅調な伸びが継続することを示している。7月の売り上げは前期比で1.9%増加し、特に鉱工業とそれには及ばないものの卸売やサービス部門も売り上げの増加に貢献した。7月の鉱工業生産も前期比で1.9%増加した。主に自動車産業、金属及びプラスチック製造が伸びに貢献した。

2. 雇用率及び賃金

雇用率の伸びは7月も継続し、前月比0.1%増、前年同期比1.6%増であった。雇用率の伸びを後押ししたのは、とりわけIT通信、住宅、飲食等のサービス部門であった。8月は失業率の緩やかな低下が継続した。季節調整前の登録ベースでの失業率は前月比で0.15%低下して11.32%となった。7月の平均賃金は、前年同期比で2.7%上昇し、本年上半期の2%の水準と比べて若干加速した本年上半期と比較すると、建設部門において4%と特に大きな賃金の伸びが見られた。7月の平均名目賃金は843.8ユーロであった。

3. 物価

8月の消費者物価指数の下落は、前年同期比0.2%減（7月は0.2%減）、前月比0.2%減であった。原油価格の下落はガソリン及び軽油の消費者価格に更に強く反映され、エネルギー価格の急速な下落をもたらした。実質賃金及び家庭の最終消費の伸びは限定的にサービス価格の動向に反映され始めている。インフレ動向に対するリスクは、短期的には、本年下半期の原油価格及び食料品価格の大きな変動である。中銀は、予測される家庭向けガス価格の下落（約3.9%下落）及び燃料価格の下落を踏まえ、9月のインフレ率が-0.5%の水準になると予測している。

4. 貿易

7月の製品輸出は実質で前期比1.2%増となり、プラス基調に回復した。自動車が輸出の伸びに貢献した。その他、タイヤ、石油製品等が輸出に貢献した。7月の製品輸入は実質で前期比2.5%増となった。輸入は投資財とその部品や関連機器、産業用の輸送機器、耐久消費財及び中間消費財の輸入が増加した最近数ヶ月の傾向を持続していると考えられる。7月の輸出は前年同期比9.1%増、輸入は12.3%増となった。7月の貿易黒字は1億4100万ユーロであった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

